



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	第5学年 英語 "What time do you wake up?" (II 実践報告 アクティブ・ラーニングの授業実践9) (fulltext)
Author(s)	石毛,隆史
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属大泉小学校, 28: 308-313
Issue Date	2017-08
URL	http://hdl.handle.net/2309/148840
Publisher	東京学芸大学附属大泉小学校
Rights	

8 アクティブ・ラーニングの授業実践⑨

第5学年 英語 “What time do you wake up?”

実施 平成29年1月

対象 5年うめ組 34名

授業者 石毛 隆史

1. 単元名 “What time do you wake up?”

2. 単元の目標

- 教師や友達の行動する時刻についての話を聞いたり、絵本の読み聞かせを聞いたりする活動を通して時刻や動作を表す英語表現を聞き、理解できるようになる。
- 絵本や歌の歌詞を使って音と文字を一致させていく活動を通して、文字に見慣れていく。

3. 評価規準

コミュニケーションの関心・意欲・態度	・英語の質問に答えたり、自分のことを英語で伝えたりしようとする。
言語運用能力	・時刻の表現を英語で聞いて理解することができる。 ・生活の中で使う動作を表す英語を聞いて理解することができる。
	input I wake up at ~. I eat breakfast at ~. I eat dinner at ~. I go to bed at ~. What time did you~? 時刻
言語や文化についての知識・理解	・音と文字につながりがあることを理解する。

4. 単元について

(1) 指導計画 (全3時間)

- 第1時 (本時) ・絵本から発展させて、自分の生活時程についてやりとりすることを通して、時刻や動作の英語表現を **input** していく。
・学校のスケジュールを確認していくことを通して、時刻を聞いたり、言ったりする。
・絵本の読み聞かせをペアで行うことで、英語を **output** できるようにする。
- 第2時 ・児童が知っているお店の開店時刻や閉店時刻を話し合う活動を通して、時刻を聞いたり、言ったりする。
・世界地図を見ながら、「日本が〇〇時の時」の外国の時刻を考えていく活動を通して、時刻を英語で答える。
・歌の歌詞を使い、指追いで歌を歌う活動を通して、音を文字と照らし合わせていく。
- 第3時 ・自分たちが使っている電車やバスの時刻について話し合う活動を通して、時刻を英語で言っていく。
・自分の日課について円グラフに書き込んでいき、それについて話し合う活動を通して、時刻を英語で言ったり、日課を表す英語表現に慣れ親しんだりする。

(2) 本時の教材について

①扱う英語表現について

本単元では、時刻と日課(wake up や go to bed などの生活にかかわる動詞)を表す英語表現を扱う。これは、"Hi, friends! 2"の Lesson 6 で扱われているところである。時刻は今までにあまり触れてきたことがなかったので、この単元では時刻を扱う活動をいくつも設定し、時刻の英語表現に慣れ親しんでいくようにしている。また、日課を表す英語表現は、普段の授業の warm-up の部分で、少しだけ触れたことはあるが、特に表現に着目して学習をしてきたことはない。そこで、この単元では、それらの表現を中心に扱っていく。本時は、時間割を見ながら始まりや終わりの時刻について話し合う活動をする。その中で、「8時」や「8時半」などの時刻だけでなく、「8時35分」などの細かい時刻の言い方を扱う。児童は自分たちの生活時程を全て把握しているわけではないので、確認しながら時刻を聞かせていく活動になるのではないかと考えた。本校の生活時程は木曜日だけ他の曜日とは時程が異なる。そこも別に扱うことで、異なる時刻の input へとつなげることができる。

②歌と絵本について

本時では、まず歌を扱う。"Down By the Bay"という曲を使う。この曲は掛け合いで歌うことができる。また、歌が進んで行く中で歌詞が変わるところが上手く韻を踏んでいる。高学年になると、ただ歌うだけでなく、このような歌で掛け合いを楽しんだり、韻を踏むところを意識しながら歌ったりすることも楽しむことができる。歌を使うことで児童に英語らしい音を聞かせることができると共に、音と音のつながりを自然と身に付けていくことができる。今回の歌は児童にとって初めて聞く歌なので、本時では歌えるところだけ歌うように促す。

この単元において扱う絵本は、2冊ある。1冊は、"What's the time, Mr. Wolf?"という絵本である。毎学期取っている児童へのアンケートから分かったのだが、本学級の児童は絵本の読み聞かせが好きである。この絵本を使って時刻の導入をできたらと考えた。一度絵本を読み聞かせた上で、内容について児童とやりとりをする中で、自然と時刻や生活にかかわる動詞などを input していきたい。

また、もう1冊の本は、今年度繰り返し扱ってきた"Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?"を扱う。読み聞かせをする本としては幼い本であるが、目的としては読み聞かせよりも、児童が自分たちで読み聞かせをするために扱った。本時では、この本を使って児童同士が互いに読み聞かせを行う。互いに気づいたことをアドバイスすることで、自分では気づかないところを指摘し合うことができると考えた。ここで気をつけたいのが、アドバイスをするポイントを示すことである。全体の活動の中で教師が児童に意識するように伝えている部分を意識してお互いに聞き合うように伝えていく。

(3) 児童の実態

本学級の児童は、5年生にしては幼い児童が多い。絵本の読み聞かせや歌を歌う活動を大変好み、楽しんでいるということがアンケートを通して分かった。また、普段の授業中にはあまり積極的に発言しない児童が多いので、外国語活動に興味がないものだと思っていたのだが、「話したい」「もっと知りたい」「読みたい」「書きたい」などの意欲的なコメントがアンケートから見られた。自分たちの英語に自信がないため、積極的に発言ができないようである。そのため、普段から、児童が自信をもって活動に取り組めるように、聞く活動を多めに取っている。本単元においても、聞く活動を多めに取って、そこから児童の output へとつなげていくようにした。

5. 「アクティブ・ラーニング」の視点

「アクティブ・ラーニング」の視点で外国語活動を行うといったときにイメージしがちなのは、児童が「積極的」に互いにコミュニケーションを取ろうとしている姿ではないだろうか。小学校の外国語活動において、児童同士が英語でコミュニケーションを取る姿が期待されているのかもしれないが、それはとても難しいことだと考えている。コミュニケーションを取るためには、取るための材料（英語表現など）が必要である。その材料がないのにもかかわらず、児童に「英語で互いに言い合ってみよう。」ということは酷なことではないだろうか。

学習指導要領の中で述べられている「コミュニケーション能力の素地を養う」とは、そのコミュニケーションを取るために必要な材料を児童の中にためていってあげることなのではないかと考える。そのため、本校においては児童に **input** をたくさんすることを大切にしている。もちろん **output** することは望ましいが、それを目標にはしていない。そこを目指して授業をしてしまうと、そこにたどり着くために、児童に無理強いをしなくてはならないことが出てくるからである。**Output** はあくまでも **input** を行って、その末に出てくるものであると考える。だからと言って、「言わせる」ことがよくないのではなく、「思いがないのに言わせる」ことがよくないと考える。


本校では、児童が「考えて」英語を聞いたり、「考えて」英語の質問に答えたりできるようなことがとても大切だと考える。すでにやることがわかった上で英語を聴いたところで「へ～」としか思えないが、何を話しているか分からない状況の中で「何を話しているのだろうか？」と疑問をもって話を聞くことで児童は頭を働かせる。わからないから、前のめりになって聴くのではないだろうか。「先生たちが今から好きなことについて話すから聞いていてね。」「こんな風なやりとりをするために、今から先生たちがやって見せるからよく聞いていてね。」と言ってから児童に英語を聞かせるような活動ではなく、自然のやりとりの中で児童に英語を **input** したり、**output** させたりしていく。思ってもいないのに、“**I like baseball.**”と言うよりも、そこで「本当の自分」を表現させる場面を作りたい。児童が「聞きたい」と思い、そして、その英語表現を使って「言いたい」と思うような活動にすることで、児童が能動的に学ぶ場が生まれていると考えた。

6. 本時について

(1) 本時の目標

- ・英語での時刻の言い方を知り、時刻を聞き取ることができるようになる。
- ・絵本を読み聞かせる活動を通して、リズムを意識して英語らしい音で読み聞かせができるようになる。

(2) 本時の展開

○学習活動 T使用した英語 C 児童の反応	◇指導上の留意点
○♪Down By The Bay♪を繰り返し聞き、英語の歌に親しませた。	◇何度も繰り返し聞かせた後、どんな音が聞こえてきたか確認した。 ◇聞こえたと思った音がどの辺りで聞こえたのかを確認しながら歌を聞かせた。
<div data-bbox="156 1848 548 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">Frog って聞こえてきた！</div> 	◇頻度が高く歌われている単語については、「何度聞こえてきたか」を問うことで、集中して聞かせた。 ◇歌詞に出てくる動物を絵で描いて視覚的に理解させた。 ◇文字は提示せず、まずは音で input していった。 ◇何度も聴いた後、歌えるところだけ歌うよう促すことで、自信をもって歌えるところだ



けを歌えるようにした。
 ◇単元を通して、この歌を扱って行くことを伝え、少しずつ歌えるようになっていけばよいことを意識づけた。

そうだね。みんなの言う通り、このような動物が出てきていた

○絵本の読み聞かせを聞き、本時にかかわる表現(時刻)にふれた。

◇一度通して読み終え、終わってから時刻に関する質問を投げかけた。
 ◇日本語で答えた場合には、英語で教師が言うことで、英語表現を input していった。
 ◇登場人物を自分と置換えさせることで、日常生活の行動を表す英語表現を input していった。
 ◇教師の話も織り交ぜながら、伝えていくことで、「普段からのこと」ということを理解できるようにした。
 ◆時刻に関する質問に日本語でも答えることができていた。



What time did Mr. Wolf wake up?

Seven!

Yes! He woke up at seven o'clock.



○学校の一日の時刻を確認する活動を通して、時刻の英語表現を理解する。

T: What time does the first period start?
 C: 8...35分
 T: Yes. The first period starts at 8:35.

◇時間割を1時間目から順に確認していく事で、児童にとって考えやすいものにした。
 ◇はじめのうちは日本語で答えていたので、教師が英語で応えて input することを心がけた。
 ◇一度通して質問した上で、ランダムに聞いていくことで、児童が考えながら質問を聞き、答えられるようにした。
 ◆生活時刻を聞き取り、質問の意味を理解した上で返答することができていた。

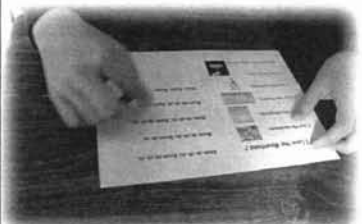

○絵本を互いに読み合いアドバイスをした。

◇ペアになり、互いに Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? を読み合った。
 ◇読み終わったら互いによりよくするためのアドバイスを伝え合わせた。



See に気をつけた方がいいよ。



<p>○文字遊び</p> <p>♪I Love the Mountains♪</p> 	<p>◇すでに歌ったことがある歌の歌詞を見ながら歌うことで、音と文字を結びつけられるようにした。</p> <p>◇歌いながら指追いさせ、なんとなくどこを歌っているのかわかるようにした。</p> <p>◇歌詞は指追いしやすいように、区切りの良いところで改行しておいた。</p> <p>◇何度か繰り返しおこない、最終的には歌っている場所を指で追えるようになった。</p> 
--	---

(3) 本時の評価

- ・時刻を聞き取ったり、時刻に関する質問に答えたりすることができた。
- ・英語らしいリズムで絵本の読み聞かせをすることができた。

7. 考察

(1) 成果

活動をおこなうときには、状況設定や場面設定をしっかりとしてから活動に入ることで、より意欲的に児童が活動に取り組むことができるということを目の当たりにすることができた。今回の授業では「おおかみさんは、〇時に起きたけど、みんなはどうだろう？」というような形で投げかけた。これでも児童は上手く活動に参加してきたと感じた。今回の授業後の協議会を通して、それ以外にも、「クラスの中で、一番早く起きている人は誰なのだろう？」や「7時台に家を出る人はどれぐらいいるのだろうか？」などという発問で活動を進めていく方法もあることを知った。そのため、次時の活動では、それらの発問を使って授業を進めてみたところ、同じように児童は意欲的に活動に取り組むことができた。使っている英語表現は同じだったので、異なる発問にすることで同じ英語表現を繰り返し **input** することができた。

また、今回の授業の中で互いに絵本を読み聞かせる活動と、歌詞の指追い活動をおこなった。どちらの活動もまずは音を **input** した上で、児童の中にたまった音と、そして文字をつなげるための活動であった。絵本を読み聞かせ合う活動では、児童は歌を覚えるように絵本の英文を覚えた。そのため、カタカナなどをふることなく、読み聞かせをすることができるようになった。忘れてしまった部分は、絵本に書いてある文字を見ながら、「ああ！そうだった。」と言いながら読み聞かせを続けていた。よくありがちな「覚えるためにカタカナをふる」ことをしなくても児童が英語を読むことができるようになることを実感できた場面であった。もちろん、児童は全てを読めているわけではないのだが、児童の実感として「読めるようになった。」という風を感じることもできたようだった。それは今後の学習意欲にもつながるものであった。また、歌詞を指追いする活動は、今まで音でしか聞いていなかった歌を、文字で見ることで新たな気づきも生まれた。ある児童が、「今までは『la』だと思っていたものが『da』だということが分かった。」というふりかえりを述べた。児童に音でしっかり聞かせていくことは大事だが、やはり音だけだと聞き間違いなどが生まれる。日本語で良くある「気をつける」を「きよつける」と覚えてしまうことと同じである。しかし、文字を見ることで「ああ！そうなんだ。」と思うことができるであろう。それと同じで児童も音と文字の両方を通して言語を習得していつているのである。このような姿が見られたことも今回の授業をやってみた収穫であった。

(2) 課題

本時において、児童に生活の中で使う動作を表す英語表現を十分に聞かせることができず、時刻の表現を聞かせることがメインになってしまった。そのため、児童から時刻の英語表現は **output** されるようにはなったが、動作を表す英語表現はあまり出てこなかった。また、**input** する際にも、教師の「**input** をするぞ」という気持ちが弱く、やりとりが中心となってしまう、質の高い **input** をすることができなかった。

今回、歌の活動ではなるべく担任の先生が授業をするときの参考になるようにと考え、CDを使って音源を聞かせた。その際に、教師がCDと一緒に歌ってしまったことで、児童がどちらの音を聞いたらいいか迷わせてしまうことになった。次時の活動の際には、教師が歌を歌って聞かせることを意識して活動をおこなった。なるべくであれば、音は生で聞かせたいというのが授業者の願いである。そうすることで、児童は音だけでなく、口の動きもみながら英語を聞くことができる。音だけではどのように出したら良いか分からない。口を見ることでどのように出したら良いかの手本をみることができるのも大切である。